

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2491400061		
法人名	ヘルスケアサポート株式会社		
事業所名	グループホームいなべ		
所在地	三重県いなべ市員弁町松ノ木367-1		
自己評価作成日	平成25 年 10 月 17 日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigvosvoCd=2491400061-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 25年 11月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様のペースで生活して頂くよう心掛ける。 いつもそばに人がいることを感じて安心して過ごしていただく。 入居者同士のつながりを大切にさせていただきます。 家族様には 今の状態を機会あるごとに お伝えする 家族様の不安や疑問の相談には積極的に対応する。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの周りの畑や新しい住宅が広がる静かな環境の中、木造平屋建てで日当たりもよく、ホームの庭で花壇や家庭菜園作りをしている。日中は、リビングで過ごし、利用者と職員との顔がいつも見えている。利用者が優先を第一に、ホームの理念「笑顔と信頼」を実践した介護支援をしており、利用者の笑顔は家族の安心と考え、家族との信頼関係維持に努めている。近隣の方が採れたての野菜を届けてくれたり、地域とのつきあひも大切にしている。また、協力医・看護師の往診もあり、安心した生活を送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔と信頼」を理念とし、入居者様が、その人らしく、そして笑顔で安心して、落ち着いた生活を送っていただける様、サポートしている。	「笑顔と信頼」を理念とし、常に利用者の事を一番に考え、出来ることは見守り、出来ないことを手伝いながら利用者本位の支援をしている。利用者の笑顔は家族の安心と考え、日常生活の写真を壁に掲示したり、密に連絡を取り合いながら家族との信頼関係を築いている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事に積極的に参加交流したり、ご近所の皆様に、事業所行事(家族会、イベント、避難訓練等)に積極的に参加していたりしている。	地域の祭りには利用者と共に参加している。また、ホームでの行事や敬老会、消防訓練には地域の方の参加を得ている。散歩時には地域の方と挨拶を交わし、野菜を頂くなど交流がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所での研修等に、地域の皆様に参加していただける様、働きかけている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行ない、地域の方との交流を図る。家族会も行ない、日々の取り組み状況を報告する。	昨年12月、本年5月に、家族代表・市介護保険課・包括支援センター・自治会長・老人会長・民生委員の出席を得て開催した。事業所の利用状況や取り組みを報告し意見や情報を頂き、避難訓練の協力依頼をしている。欠席者には書面で報告する。	推進会議は地域や家族、行政の理解、支援を得る機会である。開催回数を増やし、充実を図るよう期待する。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や地域包括支援センターなどの研修等への参加。職員間の伝達。入居希望状況情報伝達。家族会、避難訓練への市や地域包括支援センターの方の参加。	市介護保険課、地域包括支援センターを訪問して相談したり情報をもらっている。また、研修会や講習会に参加して普段から信頼関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については、家族会で話し合った結果、家族からの要望があった為、行なっている。スタッフの見守りで定期的に開錠している。	玄関に鈴をつけて自由に出入り出来るように工夫をしている。夜、寝ない方には話をしながら寄り添う支援をしている。施設長・職員は日頃から話し合いながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアや対応が、虐待にならない様、常に職員が意識しながら、自由に話し合える機会をもっている。カンファレンスでの確認。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会・セミナー（県・市・民間主催）に参加。他の職員に伝達し、情報を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者および家族の方々の利益・不利益にかかわらず説明し、理解をしていただいている。苦情、相談窓口の説明。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会・面会時に遠慮なく話せる様、努めている。施設での生活状況説明。	家族には利用者の普段の生活ぶりを撮影した写真を見てもらい、利用者の状況を説明して安心してもらっている。家族会や面会時に、意見・要望が言える関係づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員全員が集まる時（施設会議等）に、意見を集約し、反映している。	月1回の施設会議で意見や提案を聞き、反映させている。毎日の気づきは施設長に相談し、職員間で共有し改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員にテーマ（各入居者担当者等）を与え、目標意識を持つ様、配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員が交代で研修に参加できる体制づくりと、そこで得た知識・情報を共有している。同法人の他施設での体験研修。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を積極的に図り、情報交換等を通じ、サービスの質の向上に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心出来る様に、ゆっくりとお話をして、信頼関係を作る努力をする。話しの途中で口を出さず、入居者様の話を最後までしっかり聞く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が望んでいる事を理解し、より安心していただける関係に努めている。聞き取りシート(暮らしについて教えてください)の活用。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の思いを受け入れ、他のサービスもあると紹介し、不安を取り除く。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の食事や作業を一緒にしていただき、共に笑ったり、支えあったりしながら生活する。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と一緒に居る様に接している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・友達に面会に来ていただきながら、ゆっくりと話をしていただく。面会は積極的にお願いしている。	面会者が多く、友人の訪問があり、居室で話しをして楽しいひと時を過ごしている。自治会の行事で馴染みの方に会って話をしたり、家族と一緒に掛ける利用者もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に食事をとったり、助け合いながら、利用者同士、話が出来た関係作りの支援をさせていただく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	情報提供・支援・相談に快く応じ、家族様との関係性を大切にする。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出勤社員は、必ず一人一人に声をかけ、入居者の思い等を把握しながら、入居者の意向に寄り添った支援をする。	施設長・職員は、朝出勤すると利用者一人ひとりに声掛けして、状態の把握に努めている。その日々に沿った支援を心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者一人一人の生活歴を家族の方にお聞きし、日々の暮らしの中でも会話をしながら、その人の気持ちを知る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の体調に合わせて、一日の過ごし方を把握し、畑仕事や洗濯物干し等出来る事を、行なっていたい。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員でカンファレンスを行なう。担当職員が主にモニタリングを行い、意見交換し、ケアマネージャーが介護計画を作成する。面会時に家族の意見も聞き、介護計画に反映している。	3ヶ月毎に見直しをしている。毎日の記録から全職員でカンファレンスを行い、担当職員がモニタリングして介護支援専門員が作成、家族の意見も反映させている。プランはリビングの見やすいところに置いてケアに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録に記入し、気づきを職員全員が把握し、ケアプラン実施表に記入し、申し送り等で情報交換し、確認する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族の状況に応じて、変化・意向に柔軟に対応して、支援を行なっている。また、状況報告を家族にし、相談し、支援を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺の散歩のおり、畑で作業の時等、近所の住民の方々と挨拶をし、コミュニケーションを良くしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度、訪問診療に来ていただき、状態説明と報告をし、健康管理に気をつけている。不安がある時は、医師にすぐ連絡し、指示を仰いでいる。	協力医師が2週間に1回、看護師が週4回訪問して健康管理をしている。かかりつけ医、専門科受診は家族にお願いしたり、職員が同行支援をしている。病状や薬の変更があれば家族に連絡する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度程度、訪問看護に来ていただいている。入居者の心身の状態を相談し、日常健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日常的に医療機関等との交流の中で、家族様を含め情報交換を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会等の交流の中で、話し合っている。重度化やターミナルに向けての書類を交わしている。状態変化があったら、その都度、医師を含めた話し合いの機会をもっている。	入居時に「重度化した場合における(看取り)指針」の説明をし、同意書を交わしている。重度化してきたら家族・医師・施設が話し合いを持ち、出来る事、出来ない事を明確にして支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療機関との24時間体制をとると共に、緊急時のマニュアルを作成し、職員への徹底とAED等の使用、人口呼吸法など、訓練を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害等に対するマニュアルを整備し、消防署の指導による避難訓練(夜間帯を想定した)や自治会の方との交流を通じ、地域協力体制を図っている。	毎年、消防署指導による避難訓練を実施しており、12月に夜間想定避難訓練を行った。自治会長を通じて地域の協力もお願いしている。また、事業所の庭に備蓄倉庫を設置している。スプリンクラー設置の申請中である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねることなく、その方の人格を尊重した声かけや話し方をしている。	トイレ誘導、入室、汚れ物の始末等の声かけや対応は、自尊心を傷つけないように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者に合わせた声かけをし、表情に気をつけて、訴えを理解する様に心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースで自由に過ごしていただいている。レクリエーション等の参加も本人の意思を尊重して、対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で出来ることは、自分で行なっていたき、服装等も、本人のプライドを傷つけない様、さりげなく身だしなみを整えていただく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員で食事の簡単な下準備(机拭き・もやしのひげ取り・えんどうの筋取り)等、を共に行なう。食事職員と楽しく食べていただいている。お楽しみ献立を定期的により作り、目でも楽しんでいただく。	メニューは冷蔵庫の食材をみて、利用者と相談して決めている。畑で採れた野菜や近所から頂いた野菜と一緒に下ごしらえをしている。また、季節の花見におやつを持って出かけたり、施設の庭で気分をかねて食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせて、食事形態の対応をしている。水分量が摂取できているか、食事摂取ができているか、チェックをし記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き・うがいを促し、義歯の洗浄の声かけを行ない、出来ないところは、介助している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は、排泄パターンを把握し、尿意の訴えのない方も、定期的に声かけし、トイレ誘導を行ない、不快感を軽減していただいている。	排泄パターン表を参考にして、一人ひとりの様子をみながら声かけをしたり、寝たきりの方にトイレに坐ってもらったりしながら、トイレでの排泄や自立にむけた支援を行っている。リハビリパンツから布パンツになられた方もみえる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排尿・排便間隔の確認をし、水分摂取・運動を心がける。食事にも野菜を沢山使用し、おやつにも工夫している。水分摂取できない方は、ゼリー等個々に応じた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	随時、入浴できる様にし、一人一人のタイミングに合わせて、個々に寄り添った支援をしている。(菖蒲湯、ゆず湯等季節を感じてもらえる入浴)	毎日、午前・午後に入浴支援をしているので、好きな日、時間に入浴を楽しむことが出来る。菖蒲湯、柚子湯で季節感を味わっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は、ゆっくり休む時間を提供。夜間に眠れない方は、一緒にテレビを見たり、ゆっくりと話を聞き、安心していただける様、心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の処方内容に基づき、服薬の見守り・確認を行なう。入居者の症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物のたたみや掃除等、出来る作業を入居者に合わせてお願いしている。畑の草取り等、生活歴をくみ取り、楽しみながら過ごしていける様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、外気浴や散歩に出かけられている。畑仕事も入居者と地域の方との交流の場所となっている。家族の方にも、行事等に参加の呼びかけをしている。(夏祭りでの地域の方とのふれあい)	近所を散歩して、入居者と地域住民の交流の場になっている。庭で洗濯を干したり、畑の手入れ、草抜きをする方もみえる。コスモス畑や紫陽花を見に出かけたり、近くにある乗馬クラブのポニーとの触れ合いもある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今は、お金を持つことに執着する入居者が殆どみえない居ない為、所持はしていない。必要であれば 施設で立替させて いただく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居時に、家族の了解をいただき、希望時には、電話をしていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂と台所が一体化されているので、職員も入居者からも、様子が見え、安心感を与えている。	利用者は、一日のほとんどをリビング兼食堂で過ごしており、廊下にはソファが置かれ会話の場所になっている。畳スペースは昼寝や洗濯たたみにも使用されている。壁には行事の写真が掲示されており、部屋には季節を感じる、利用者と職員の作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室や廊下にソファや長椅子を置き、またタタミの所で一緒に横になるなど、自由に話をされながら過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物を持って来てもらっている。衣類は、季節の変わり目に家族と相談して、入れ替えを行なっている。	居室の窓から畑が見えたり、使いなれた日用品が持ち込まれて、家庭の雰囲気が感じられる。居室は快適に過ごせるように温度管理をしている。朝や昼休みに部屋の掃除をしたり、それぞれが居心地よく暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能を維持する為、手すりの設置や歩行器等、個々の状況に合わせて取り入れ、見守りを行なっている。		